

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和2年 3月 13日

事業所名 おひさまはうす

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広すぎても落ち着かないため、どこで何をしたいのか明確にしている	机の高さの調整ができるものを使用する 個別療育のため十分な広さはある
	2 職員の配置数は適切である	○		利用人数の多い日には少し多めに人員を配置している	今後も継続していく
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		場所と活動をセットにするなどわかりやすい工夫を行っている。また車いすの方でも移動できるようスロープ等もある	利用する方の特性上、Aさんが過ごしやすいように工夫するとBくんにはわかりにくくなるなどある。そのため継続して再構造化していく必要がある
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		当然ではあるが、毎朝欠かさずに掃除をしている	少しずつ心地よく過ごせるような工夫を実行する(電気の雰囲気、観葉植物など)
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日夕方にミーティングを行い、非常勤も含めて様々なスタッフが意見を出し合えるようにしている	月1回のスタッフミーティングとも組み合わせ、広く職員が参加できる枠組みを作る
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		HPや事業所の玄関にアンケート結果を公表している	具体的な支援の取り組みや繰り返し調整している点についても報告する
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎月1回のスタッフミーティングなど全体で確認する場をかならず設けている。事業所アンケートについても毎回振り返り、改善点を確認している	HPや会報の更新頻度を増やす Facebookなども有効に活用し、改善した点が目で見て確認できるようにしていく
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		保護者や見学者、行政の方などが頻繁に出入るするため、結果として第三者的な立場の方見えていただく機会が多くある	明確に依頼をしているわけではないため、今後他事業所の方と連携していくことも検討する
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修や事業所主催の講演会などを実施している	今後も継続していく
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		初回は必ず簡易評価キットを実施し、インフォーマルな評価をきちんとしてから支援計画の立案をしている	フォーマルな評価の読み取りがどんなスタッフでもできるような研修の機会を持つ
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	インフォーマルな評価のツールはあるが、標準化されたものは現時点ではない	外部機関とも連携していく必要がある
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		毎回保護者の方と一緒に通所されるため、毎回家族やその地域で生活する上で必要なこと等はかならず確認するようにしている	今後も今の形を継続していく
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画をもとに保護者の方と見直しながら活動を行っている	今後も今の形を継続していく
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		常勤スタッフと非常勤スタッフでチーム編成を組み、様々な視点が入るようにしている	地域生活に向け、福祉現場スタッフ以外の方も参加してもらえるようなシステムを検討していく
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	○	どうしても目標に沿ってと考えるとプログラムが固定化しやすい	振り返りの中で修正が必要な点を出し合い、次回の活動に活かすよう心掛ける	

関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		計画の作成は行っているが、同学年での活動は利用人数の兼ね合いでできていない	未就学の利用者対象の行事やプログラムを充実させていく
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		始業時にはその日のプランを確認し、実施前に再度打ち合わせを行うようにしている	始業時にプラン立てていたことも、チームで準備を進めていく中でプランが変更になることがある。そのため、受け入れ前にも必ず最終の打ち合わせを行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		時間がなくても欠かさず行っている	もっと効率的に時間を使うことができるように検討する
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		自立課題を通してご本人の特性や学習スタイルの把握に努めている	どんなスタッフでも同じポイントで評価することができるよう記録用紙等の整理を行う
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		個別療育中心のため、毎日がモニタリングだと思っている	今後は必要に応じて計画の変更も行う
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		毎回担当者と児発管が参加している	限られたスタッフだけが対応できるという状況にならないよう、スタッフで連携していく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		行政、相談支援事業の担当者などと密に連携をとっている	今後も今の形を継続していく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		児発管が保育所に出向き様子の確認を行っている。	小学校入学時の引継ぎがスムーズにできるような流れの検討を行う
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	○	どうしても担任の先生が誰かによって対応が変わってしまう	すでに通学している他利用者とも積極的に連携を図り、情報提供がスムーズにいくようにしていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		複数の事業所を利用している方に関しては積極的に連携をしている	お互いの事業所を利用している様子をビデオに撮って確認し合うなどの工夫を行う
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	個別療育中心のため頻繁には交流活動ができていない(年に数回のイベントでは交流している)	保育所に通っている方が多く、交流は日常的に行っている。事業所主催のイベントに参加をしてもらう形も検討していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会には毎回参加し情報交換を行っている	今後は地域の一般的なこども会にも参加していくことも検討する
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者と一緒に通所するため、毎回状況把握、課題の理解ができています	母親と一緒に来られる方が多い。父親にも参加してもらい、家族全体で共通理解ができるような機会も検討する
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		2月に1回程度、保護者交流会を実施し、縦のつながりも持てるような機会を設けている	年齢幅が広く、また未就学の利用者の方も少ないため、参加しにくい傾向にある可能性がある。参加しやすい枠組みを検討する必要はある
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		毎年契約更新の際には変更点だけでなく、重要な事項は改めて伝えるようにしている	今後も現在の対応を継続していく

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ねらいや目標、今後のプラン等を毎回確認するようにしており、頻繁に優先的に取り組んでいきたい目標を確認している	その時のご本人の状況に応じて臨機応変に対応することができるよう今後も継続して円滑に連携していくことができるようにする
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者と一緒に通所するため、毎回相談や必要な助言等を行えている	全スタッフがそれぞれの経験を活かし、保護者の方の相談に適切に対応できるようスタッフのスキルアップも検討していく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		2月に1回程度、保護者交流会を実施し、縦のつながりも持てるような機会を設けている	年齢幅が広く、また未就学の利用者の方も少ないため、参加しにくい傾向にある可能性がある。参加しやすい枠組みを検討する必要はある
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		地域柄、他事業所、行政、保健師などと常に連携をとれる体制にある	日常的にも連絡会議等を行い、予防的な関わりもできるように検討していく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		HPや事業所の玄関にアンケート結果を公表しているFacebook、年に2回の会報や事業所単位でのお知らせも実施している	事業所の思いや取り組みだけを発信するのではなく、保護者の方からの意見も抽出することができるような発信の仕方も検討する
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		守秘義務の誓約書にかならずサインしてもらっている	今後も現在の方を継続し、適正な個人情報の取扱いに努める
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚的なコミュニケーションシステムの活用等を行っている	具体的には文字やイラスト、写真、実物などを使ってやり取りしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		民生委員の方と一緒に企画をしたり、地域のお祭りに事業所として出店する等している	地域のニーズに合った内容の企画も検討していく(高齢者の方との交流など)
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		事業所の実態に合ったマニュアルの作成を行い、スタッフに周知に努めている	今後もマニュアルを見直し、実態にあった内容になるよう検討していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に消防訓練を行っている。また協議会に参加し災害時避難所の使用イメージや課題の抽出を行っている	スタッフのみの訓練が多い為、利用時の活動の一環として利用者と一緒に訓練を行う必要がある
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		毎年利用者台帳を更新する際に服薬の確認も行う。	服薬等に変更があれば記録に残す。またスタッフからも確認を行う。服薬している方のリスト作成。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		フェイスシートに詳細を記載できるようにしている	配慮が必要な場合があれば、提携する医療機関との連絡等を行う
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		かならずヒヤリハット報告書を作成し回覧している	優先順位の高い事項なため、スムーズに回覧が回る工夫をする(スタッフメールなど)
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		内部研修で話をしている	できるだけたくさんの現場スタッフが研修等に参加できるよう調整する
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		そのような対応が必要な利用児はいないが、必要な場合がでてくれば計画への記載、説明等を徹底する	